

資料 履修モデル

資料B-3 がん専門薬剤師養成コース【履修モデル】

育成人材像：がん治療に特化した高い知識と技能を習得し、がん治療の最前線で即戦力となる、質の高いがん薬物療法の指導者を目指す

研究テーマ：アポトーシス誘導薬剤に関する研究

| | | | | | |
|----------|----|---------------------|---|----------------------------|-------------------------|
| 薬学専攻博士課程 | 1年 | 薬物治療学特別実験研究 10単位 | 医療生物薬学系先進特論 (2単位) | 共通特論 I (2単位) | |
| | 2年 | | がん薬物療法先進実務研修・研究 実務研修、臨床研究、学会発表と その報告 (18単位) | 共通特論 II (2単位) | 職種横断的ケーススタディ演習 (1単位) |
| | | | | SPを用いた職種横断的臨床課題演習 (1単位) | |
| | 3年 | | | | |
| 4年 | | | 論文審査 | 最終試験 (博士論文発表会) | |

想定される就職先等：薬学専攻博士課程「がん専門薬剤師養成コース」の学生は、がんに特化した特論講義および演習を通して、チーム医療を実践できるがん薬物療法に精通した臨床薬剤師としての知識・技能・態度を修得することになる。また、大学におけるがんに関連した基礎実験に加え、がん専門薬剤師養成のための研修機関（例えば、近畿大学医学部附属病院）で、がんに関連した臨床研究を行わなければならない。したがって、4年間の教育研究を通じて、最先端のがん薬物療法を実践できる臨床薬剤師の養成を図り、修了した学生の多くは、大学附属病院や国立がんセンターなどに就職し、将来、がん薬物療法認定薬剤師の認定資格、さらにはがん専門薬剤師の認定資格の取得を目指す人材の輩出を想定している。